

村山浅間神社

浅間神社は、村山むらやま興法寺三堂の一つで、大日堂に並ぶ規模の社堂であった。

神仏分離によって境内社富士浅間七社を相殿として造られ、中座ちゅうざに木花開耶姫このはなさくやひめ、左座さざに大山祇命おほやまつのみこと・彦火々出見命ひこほでみのみこと・瓊々杵命にぎの、右座みぎざに大日靈貴あまの（天照大神カ）・伊弉諾尊いざなぎのみこと・伊弉冉尊いざなみのみことを祀っている。



大正時代の村山浅間神社
（当時は浅間神社と大日堂を区切る柵があった）

現社殿は、大正2年（1913）に県社昇格を記念して再建されたということであるが、幣殿へいでんと拝殿は老朽化してきたので、鉄筋コンクリート一部木造に建替えられている。拝殿には「富士根本宮」の扁額が掲げられている。

大棟梁権現社

大棟梁だいてりやう権現社ごんげんしゃは富士修験の祖とも言われる末代上人まつだいにしやうじんを祀る社堂で、明治維新までは護摩壇裏手の一段高くなっている所にあつたといわれるが、そこは現在植林され社叢となっている。

明治維新の神仏分離令の際に、仏教的な名称の大棟梁権現社が廃され、浅間神社と大日堂の間を裏山に登り詰めた所に富士大神社ふじのおおみこと（祭神大己貴命おほのおの）として遷し祀った。

現在は高嶺総鎮守社と呼ばれ、元村山地区の氏神となっている。社殿は平成15年（2003）に再建された。



現在の高嶺総鎮守社



【アクセス】

〒418-0012 富士宮市村山1151



JR身延線富士宮駅から車で約20分

発行：富士宮市富士山世界遺産課
問合せ：平日 0544-22-1111（市役所代表番号）
休日 0544-26-6713（案内所）

世界遺産 富士山

構成資産



村山浅間神社

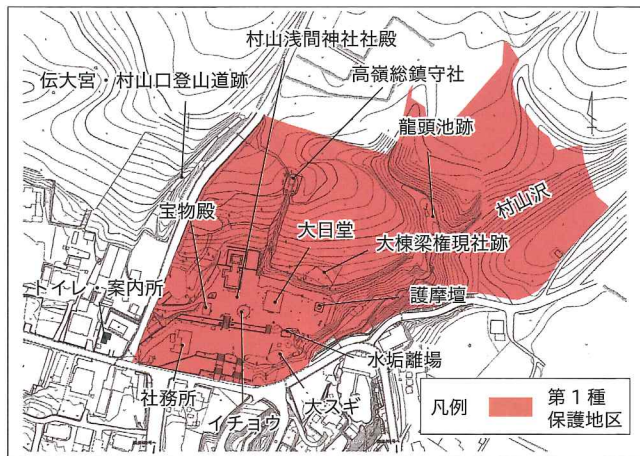
村山浅間神社

村山浅間神社は、明治の初めまで京都の聖護院を本寺とする修験道の拠点で「富士山興法寺」と称し、富士修験の中心地であった。戦国時代には、時の権力者である今川氏の庇護を受け、数多くの先達や道者（登山者）が集い、富士登山の中心地として栄えた。

当時の村山の集落は、興法寺の別当である村山三坊の法印を中心に、三坊に属する山伏や門前百姓などからなる修験集落で、東西の入口には見付（木戸）が設けられ、集落への出入りが制限されていたという。

明治には、神仏分離令を受けて興法寺は廃され、大日堂と浅間神社は分離された。

- 現況：村山浅間神社・富士山興法寺大日堂
 文化財：境内地（国指定史跡富士山）
 イチョウ・スギ（県指定天然記念物）



富士山興法寺大日堂

富士山興法寺大日堂（以下、大日堂）は、大日如来を主尊とする興法寺の中心的小お堂であった。現在の大日堂は間口5間、奥行き7間の入母屋造りで、江戸時代末期の建造だと推定される。明治7年（1874）の廃仏毀釈運動により多数の仏像が集められ戸締めされた所であるが、その後、多くの仏像が散逸してしまつたとされる。

現在大日堂には、大日如来坐像2体（胎藏界1・金剛界1）・不動明王立像2体・役行者倚像1体と後鬼・前鬼のどちらか（破損が激しく像容がはっきりしない）1体が安置されている。



大正時代の大日堂全景

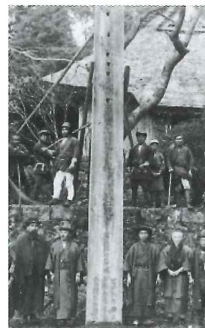
碑伝木

大日堂の入り口天井に碑伝木が保存されている。

碑伝木は、修験者が峰入りするとき信仰する神仏や自分の名前などを記し、境内に建てた物である。

この碑伝木は、天保12年（1841）に聖護院門跡雄仁親王が村山に来たときに境内に建てられた物で、風化を防ぐために根元から切り取り堂内に納めた物である。

高770cm×幅60cm×厚22cm



大正時代の様子

水垢離場と富士垢離

「絹本著色富士曼荼羅図」（室町時代作）には、道者や修験者が湧玉池（現浅間大社）や興法寺（村山）で水垢離をとり、心身を清めてから富士山頂を目指す様子が描かれている。富士山信仰に由来する垢離は「富士垢離」と呼ばれ、道者は登山前に精進潔斎して身を清めた。

村山には、今も水垢離場が残されている。水垢離場へは、社叢裏手の沢に湧く湧玉池の水を引き、上の段から樋で落とし垢離を取るようになっていた。水の落ち口には山伏修行の時の主尊とされる不動明王の石像が安置されている。村山の修験者が各地に富士垢離を広めたといわれ、今も伊勢や近江などに富士垢離の伝承を残している所がある。



絹本著色富士曼荼羅図の村山部分拡大（富士山本宮浅間大社蔵）

※垢離…入水し、身を清めること。



水垢離場（間口約6.5m×奥行約4m×深約0.6m）

護摩壇と富士峰入り

護摩壇は、村山の法印が富士峰修行に入る時や終わった時など、修行の時々採燈護摩を執り行った所である。

富士峰入りの行は、登山シーズン終了後採燈護摩を執り行ってから富士山峰に駆け込み、富士山中で修行し御殿場方面に下山しながら地域の人々の加持祈禱をして村山に戻り採燈護摩を執り行った。

現在の護摩壇は、安政4年（1857）にかつて境内にあった「大棟梁権現社」拜殿跡の上に造られたと考えられている。護摩壇正面には不動明王の石像が祀られている。



護摩壇（5.3m四方の石垣の中に直径1.4mの丸い石組）